

マークベース 取扱説明書

F1



1. はじめに

このたびは、マークベースをお買いただき、誠にありがとうございます。私どもはアンプのテクノロジーまたデザインや形に重点をおくだけではなく、ベースにとって本当に必要とされるアンプの研究を進めてきました。その結果、高品質な音と魅力的なデザインを持ち、超軽量のヘッドやアンプを開発することができたのです。

マークベースのアンプは、きわめて厳格なテストをパスしたものですので、クラブ、リハーサル会場やコンサートのステージはもちろんのこと、運搬時の過酷な環境にも耐えうる性能を持っています。もちろん、適切に取り扱うことで、きわめて長い期間にわたって輝かしく、リッチでパワフルなベーストーンを楽しむことはいうまでもありません。

クリアでパワフルなこのアンプがあなたにインスパイアを与え、結果としてよりよい音楽がプレイされること。それこそが我々にとってのミッションの達成、といえるものなのです。それでは、あなたの新しい友・マークベースをエンジョイしてください！

1. マルコ・デ・ヴァージリスからのメッセージ

それは何年も前のこと、私がイタリアでマークベースの製品コンセプトについて想いをめぐらせていた頃から、私には一つのはっきりした目標があったのです。それは、世界中のプロフェッショナル・ベースプレイヤーの要求を満たす、トップ・クオリティのベースアンプを作り出さなければならない、ということでした。そしてまた私が思い描くアンプは、コンパクトかつ軽量で、パッシブ/アクティブタイプの多弦ベースが作り出す低域にも対応しうる製品でなければならないと考えていました。幸いなことに、小型のトランスやネオジウムスピーカーといった現代のテクノロジーの恩恵によって、私はついに目標を達成することができたのです。

マークベースアンプの回路はベース本来のサウンドに色づけすることなく、楽器それぞれが持つ音質を忠実に再生できるよう、特別に設計されたものです。私はマークベース製品をより良いものにするため、世界中のさまざまなプロベースプレイヤーと密接な関係を持ちながら開発を続けてきました。

こうして今、世界中のベース・プレイヤーの要求に応える製品として、マークベースのアンプ、キャビネットのラインアップは確立されたとは私は確信しています。

マークベースをご購入いただき誠にありがとうございます。そして、ご購入いただいたアンプが、あなたのサウンドをアップグレードさせる一助となることを願ってやみません。また、さまざまなシチュエーションでマークベースをご使用いただく中で、何かお気づきの点がありましたら、今後の開発の参考とさせていただきますので、ぜひとも私共にお伝えください。

ともかくは、音楽をエンジョイしてください！

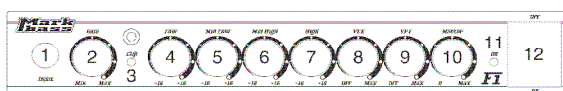
マルコ・デ・ヴァージリス
マークベース: イタリア
www.markbass.it



2. F1 製品概要

F1は、ソリッドステート・タイプのプリアンプ部と、デジタルのプリアンプ部を装備したハイクオリティなベースアンプで、4 のキャビネットでは500W、8 のキャビネットでは300Wのパワーを生み出すことができます。

2.1 F1フロントパネル



INPUT

1/4"インプットジャック(1)は、パッシブとアクティブのベース両方に使うことができます。

GAIN と MASTER

F1のフロントパネルには、ボリュームをコントロールする2つのノブがついています。GAIN(2)はアンプユニットのイコライゼーションやエフェクトループといった機能を含むプリアンプ部に、どれくらいのシグナルを入力させるかをコントロールするものです。MASTER(10)ボリュームはパワーアンプ部からスピーカーキャビネットへの出力を調整するものです。

もしプレイ中に青い CLIP ランプ(3)が点灯したら、歪みをなくするためにゲインを下げてください。

アンプに楽器を接続する前には、必ずゲイン(2)とボリューム(10)を絞った状態にしておいてください。そして、楽器側のボリュームをフルにし、強く激しく音を出しながら、GAIN コントロールを青いランプが点灯しはじめるくらいに上げてください。次に、演奏してもライトが点灯しない程度に GAIN をやや絞ってください。この手順により、いま演奏しているベースにとって最適なゲインに設定することができます。なお、ピックアップやアクティブ/パッシブタイプ、またプリアンプやEQのセッティングなどにより、ベースが異なるとアウトプットレベルもそれぞれ異なります。

いったん GAIN レベルをセットしたら、あとは MASTER ノブでボリュームを調節してください。

EQUALIZATION

マークベースアンプはお持ちのベースのナチュラル・サウンドを忠実に再生できるよう設計されています。もしあなたが良い楽器をお持ちならば、イコライゼーションは最低限にとどめておくのがよいでしょう。ベースギターは聞こえないほどの超低域から、ツイーターで鳴らすような、またはほとんど聞こえないような超高域にわたる、極めて幅広い周波数域を再生する楽器なのです。EQのセッティングをいくつか試してみるとわかりますが、異なる周波数域それぞれが、ベースのトーンを作り出す上において欠くことのできない重要な役割を担っているのです。

LOW コントロールが扱う周波数域は、サウンドにパワー感をもたらす音の土台ともいべき要素で、リスナー、そしてあなたの体をゆさぶり、時には人々が体を動かし、踊りださせてしまうような性質を持つものです。

MID LOW(Mid Frequency Low)はベースサウンドの音圧感を高めるコントロールで、空間をみたくするような遠達性のある音を作りだします。

MID HIGH(Mid Frequency High)は、演奏のピッチ感や音程感を調整するのに適したコントロールです。ベースのメロディ・ラインを明瞭に聞かせることができる、透明感豊かな周波数域ということが出来ます。別言すれば、この周波数域が明瞭でないと、あなたが作り出すメロディックなベースサウンドが音楽のなかに埋没してしまう、ということが出来ます。

HIGH の周波数域はアタックや音程感といったパーカッシブな特性を持つもので、これには指/ピックでの弾弦やフレットノイズ、スラップや演奏時のピリつきなどが含まれています。

ただ、下記のような状況では、イコライゼーションを行う必要があります。

1. お持ちのベースのサウンドそのものが、特定の周波数域が弱いという特徴を持っている場合。
2. 響きが悪く、特定の周波数が強調されてしまう部屋や会場での演奏。例えばステージなどで、低域が極端に鳴ってしまう場合や、ある音域だけが目立って大きく鳴ってしまう場合などがこれにあたります。この場合、問題のある周波数域を絞るなどして調整する必要があります。
3. 一種のエフェクトとして音色を変化させようとする場合。

イコライゼーションは繊細に行わなくてはなりません。セッティングの変更を始めるときは、まず EQ コントロールをすべてニュートラル(12 時)の位置にし、アンプから出力されるベースの音を聞きながら、じっくりと時間をかけて行ってください。いずれにせよ、あまりコントロールに大きな変更を加えない方が理想的です。

LOW EQ コントロール(4)はセンターが 40Hz に設定されています。このボリュームで 40Hz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。

MID LOW EQ コントロール(5)は 360Hz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。

MID HIGH EQ コントロール(6)は 800Hz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。

HIGH EQ コントロール(7)は 5kHz を中心とした周波数域を、最大 16dB ブースト/カットすることができます。このコントロールが受け持つ周波数域は、2kHz から 30kHz まで、とても広いものとなっています。

VLE、VPF フィルター

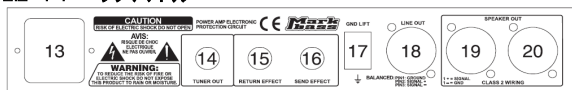
マークベースアンプは、イコライゼーションによってあなたのベースサウンドに特別な効果をもたらす、マジックとも呼ぶべき 2 つのコントロールノブを装備しています。ペーシストにとっての実践的な要求に応えるべく、特別に設計されたものですので、通常の EQ よりもひんぱんに使われるノブといえます。

VLE フィルター(8)(ヴィンテージ・ラウドスピーカー・エミュレータ)は、高域をカットし、メロウなサウンドを作り出します。時計まわりにノブを回すと、カットされる高域の周波数が広範囲になります。この EQ は、アコースティック、またはオールディーズ風の音楽に有効です。

VPF フィルター(9)(バリアブル・プリシェーブ・フィルター)は、低域(35Hz 周辺)と高域(10kHz 周辺)をブーストし、中域(380Hz 周辺)をカットします。ロックには最適なパワー感が得られるフィルターであり、またスラップベース・プレイヤーの好みにも合うフィルターといえます。

この 2 つのフィルターは最初、オフの状態にしておき、徐々に好みの効き具合に調整してゆくと良いでしょう。また、調整は当初、一方づつ行い、追って 2 つのフィルターを組み合わせると、素晴らしい効果が得られることでしょう。

2.2 F1 リアパネル



SPEAKER OUT

F1には、2 のスピーカーキャビネットを接続することができます。高品質なナイトリック・スピコン・コンボジャック(19-20)には、スピコンケーブルまたは 1/4"スピーカーケーブル、どちらも使用することができます。スピーカーケーブルを使用し、楽器用のケーブルは使わないでください。接続できるキャビネットの最小抵抗は 4 です。もし 2 台のキャビネットを接続する場合は、2 台とも 8 以上のキャビネットを使用してください。4 のキャビネットの場合、2 台繋ぐことはできません。8 のキャビネットには 300W のパワーを、4 のキャビネット(または 8 のキャビネット 2 台)には 500W のパワーを供給することができます。

LINE OUT

このバランス XLR ラインアウト(18)は、ライブやスタジオにおいて、バランス信号をミキシング・コンソールなどに送り出すことができます。このラインアウトのシグナルはポスト EQ、ポスト・フィルターの状態(つまり、エンジニアに送られるシグナルは、EQ やフィルターのセッティングが効いている、ということです)ですが、専門の技術者にご依頼いただければプリ EQ(EQ やフィルターのセッティングが効いていない)の状態でも出力できるように変更することができます。

GROUND LIFT

ライブなどでの演奏中、ラインアウト(18)使用などの際、アンプの信号にハムノイズが発生する場合があります。これは電源と関連したグラウンドの状態に起因するものです。このグラウンド・リフト・スイッチ(17)を切り替えることにより、ハムノイズを除去することができます。

TUNER OUT

チューナー・アウト(14)はチューナーにアンバランスド信号を送ります。ペダルを経由して音質を低下させてしまう、といったことはありません。このアウトは他のアンプや、バランス入力でもよいレコーディング機器に使うこともできます。

EFFECT SEND AND RETURN

リアパネルのセンド・エフェクト(16)とリターン・エフェクト(15)を利用して、エフェクトペダルやラック製品を使うことができます。この接続をしていれば演奏中に外部エフェクターのバッテリーが切れても、音がとぎれません。

3. F1 詳細

INPUTS	impedance: 500 Kohm, max. voltage: 15 Vpp
RETURN EFFECT	impedance: 22 Kohm, max. voltage: 25 Vpp
CONTROLS	
GAIN	-80 dB to +25 dB range
GROUND LIFT	switch on rear panel
MASTER VOLUME	
EQUALIZATION	
LOW	center frequency: 40 Hz; level: ±16 dB
MID LOW	center frequency: 360 Hz; level: ±16 dB
MID HIGH	center frequency: 800 Hz; level: ±16 dB
HIGH	center frequency: 10 kHz; level: ±16 dB
VLE (Vintage Loudspeaker Emulator)	max cut range: 250 Hz - 20 kHz
VPF (Variable Pre-shape Filter)	center frequency 380 Hz (cu)
OUTPUTS	
SEND EFFECT	unbalanced, max. voltage 20 Vpp
TUNER OUT	unbalanced, max. voltage 25 Vpp
LINE OUT	balanced XLR, max. voltage 10 Vpp
SPEAKER OUT	speaker, 1/4"(x2)
OTHER	
HEIGHT	1.73 in./4.4cm
DEPTH	10.04 in./25.5 cm
WIDTH	10.87 in./27.6 cm
	(can be extended to standard rack size with optional rack ears)
WEIGHT	4.63 lbs / 2.1 kg
OUTPUT POWER	500W RMS @ 4 ohm, 300W RMS @ 8 ohm
POWER REQUIREMENT	100:120V; 230V; 240V 50/60Hz
	(Voltage is factory preset appropriate to the region of sale and can be modified by authorized Markbass service technicians)
FUSE	
230V	4A 250VT 5x20
240V	3.15A 250V T 5x20
120V	6.3A 250V T 5x20
110V	8A 250V T 5x20

< 注意 ! >

- * 感電を避けるため、アンプは水滴の落ちる場所や水の飛びはねる場所に近づけないでください。万が一本体または本体内部に水がかかった場合は、すみやかに電源を切り、修理をご依頼ください。
- * コードの接続は必ずギターから先に行い、アンプをその後にしてください。アンプから先に接続すると、スピーカーを破損する原因となります。
- * ヒーター等の熱源を本体に近づけないようにしてください。
- * アンプのボリュームを上げたまま楽器またはマイクを放置しないでください。
- * ネオン灯や蛍光灯の近くで使用すると、かすかにハム音が発生することがあります。楽器やアンプの位置を変えることによって、ハム音が消える場合がありますのでお試しください。
- * バッグに入れたまま使用すると、熱がこもり電源が落ちる可能性があります。使用時はバッグから出してご使用ください。

[markbass_manual_F1]

<http://www.markbass.it/>
輸入販売元 荒井貿易株式会社

<http://www.ariaguitars.com/jp/>

〒464-8691 名古屋市中区神田町 12-2 Tel. (052)711-3311 代
東京 (03)3268-8221 大阪 (06)4704-5801 名古屋 (052)722-7171